

親子でお仕事体験

地元の小学生5組が参加

15.09.07
農村ニュース

フジイコーポレーション 藤井大介社長、新潟県燕市小池2855は、8月25日(火)に小学生の親子を対象にお仕事体験研修「うわきっず」を開催した。参加したのは、燕市と長岡市の親子5組で、除雪機の組み立て、塗装など物づくりの軽作業を体験した。当日は、報道関係5社が取材に訪れ、NHKのお昼のニュースで紹介されるなど話題を呼んだ。

新潟の除雪機メーカーであるフジイコーポレーションは、企業の社会貢献活動に力を注いでいるが、今回、初めての試み

として「うわきっず」を開催した。「うわきっず」は、同社が主催、燕市が後援するお仕事体験研修で、親子で同社の

工場での物づくり体験を「うわきっずコイン」は、同研修内で使用する架空の通貨で、参加者は、体験後、「うわきっずコイン」

でお弁当、飲み物やデザート等を購入することができる。実際に報酬を得ることで、仕事の大変さや大切さを体験してもら

う研修となっている。今回、同社では、小学校3年生～6年生までの親子5組を募集したところ、定員数を上回る応募があったため、抽選を行った。その結果、燕市と長岡市に住む男の子2人、女の子3人の親子5組が当選した。

入社式では、同社機械事業営業部の高橋敏之課長、燕市商工振興課の遠藤一真課長補佐が挨拶に立ち、同社の事業内容の説明や当日のスケジュールや仕事をする上でのルール説明を行った。その後、担当する職場をくじ引きで決めた。今回、参加者が体験した職場は、次のとおり。

①マテハン(2名) ②除雪機の部品の収集、台車での搬送作業 ③塗装(1名) ④マスキング ⑤サブ組(1名) ⑥小型機組み立て(1名)。

入社式後、参加者全員が同社が用意したつなぎ、安全靴、帽子に着替えて工場見学を行ない、親子が1組になって、1時間程度、お仕事を体験した。職場では、複数の社員が付き、手取り足取り丁寧に指導。参加した子どもは、初めて体験する除雪機の組み立てや塗装作業に興味津々。眼を輝かせて作業に取り組んでいた。

お仕事後は、お給料として、一人1500円相当の「うわきっずコイン」が支払われ、お昼のお弁当、飲み物、デザートやお土産を購入してもらった。午後からの退社式では、終了証が授与され、アンケートの記入が行われた。今回、サブライズで子どもたちに同社の高所作業機に乗って緑化事業として育てていたメロンの収穫を行ってもらった。

今回、参加した子どもは、「(作業は)難しかったけど面白かった。また参加したい」、保護者は「本格的な体験をさせてもらった、子どもの夏休みのいい思い出ができた」など大好評だった。

訂正 本紙8月31日号9面フジイコーポレーションの記事中の特長⑧「アシスト付きレバーにより軽力で操作可能」とあるのは、従来型式の特長で間違いにつき訂正いたします。



台車で部品を搬送する女の子



ベテラン社員が手取り足取り

今回、同社では、小学校3年生～6年生までの親子5組を募集したところ、定員数を上回る応募があったため、抽選を行った。その結果、燕市と長岡市に住む男の子2人、女の子3人の親子5組が当選した。

入社式では、同社機械事業営業部の高橋敏之課長、燕市商工振興課の遠藤一真課長補佐が挨拶に立ち、同社の事業内容の説明や当日のスケジュールや仕事をする上でのルール説明を行った。その後、担当する職場をくじ引きで決めた。今回、参加者が体験した職場は、次のとおり。

①マテハン(2名) ②除雪機の部品の収集、台車での搬送作業 ③塗装(1名) ④マスキング ⑤サブ組(1名) ⑥小型機組み立て(1名)。

入社式後、参加者全員が同社が用意したつなぎ、安全靴、帽子に着替えて工場見学を行ない、親子が1組になって、1時間程度、お仕事を体験した。職場では、複数の社員が付き、手取り足取り丁寧に指導。参加した子どもは、初めて体験する除雪機の組み立てや塗装作業に興味津々。眼を輝かせて作業に取り組んでいた。

お仕事後は、お給料として、一人1500円相当の「うわきっずコイン」が支払われ、お昼のお弁当、飲み物、デザートやお土産を購入してもらった。午後からの退社式では、終了証が授与され、アンケートの記入が行われた。今回、サブライズで子どもたちに同社の高所作業機に乗って緑化事業として育てていたメロンの収穫を行ってもらった。

今回、参加した子どもは、「(作業は)難しかったけど面白かった。また参加したい」、保護者は「本格的な体験をさせてもらった、子どもの夏休みのいい思い出ができた」など大好評だった。

訂正 本紙8月31日号9面フジイコーポレーションの記事中の特長⑧「アシスト付きレバーにより軽力で操作可能」とあるのは、従来型式の特長で間違いにつき訂正いたします。